

## 夫婦セミナー（その2）

### 親密感を育てる

キム・ソンムク

『お父さん、愛しています』の著者

前は「家庭は社会のベースキャンプ」というテーマでした。

「健康な家庭は、すべての社会組織の基本であり、国の心臓です。

家庭には、親、夫婦、子どもの3要素がありますが、中心は親子ではなく、夫婦です。夫婦が一つになって親孝行をすべきです。

人生の成功の秘訣は、関係づくりです。それを最初に学ぶのが家庭です。

夫婦が互いの権威を認め合うとき、子どもは健康な社会性を持ち、道徳性も高まります。

夫婦は、それぞれが親から受けた傷を離れ、まちがった影響力を断ち切らねばなりません。」

今回のテーマは、「親密感を育てる」というお話です。

男性方には愉快ではないでしょうが、韓国にこんなジョークがあります。

子犬と夫には、共通点がある。

- 1 番目、エサをあげなければならない。
- 2 番目、たまには遊んであげなければいけない。
- 3 番目、複雑なことばは理解できない。
- 4 番目、ちゃんとしつけないと、一生苦労する。

夫には子犬よりも良いところがある。

- 1 番目、金を稼いでくれる。
- 2 番目、簡単なおつかいができる。
- 3 番目、家に置いて、旅行に出かけられる。
- 4 番目、いっしょに外出した時、出入り禁止の場所が少ない。

子犬が夫よりも良いところがある。

- 1 番目、ひとつ屋根の下で2匹飼っても問題が生じない。
- 2 番目、よそで泊まって来ても、尻尾を振って喜んで迎える。
- 3 番目、飽きたからといって捨てる時も、弁護士がいない。
- 4 番目、子犬の親から干渉をされない。
- 5 番目、あまりお金がかからない。

### ●親密感を育てる

親密感が、人間関係で一番大切です。夫婦の間でも子どもたちとの間でも大切なのは、親密感です。

夫は仕事に行き、中心が外に向きます。葛藤の中で、夫婦の親密感がなくなります。この時にふたりをつなぐのが、子どもです。子どもが生まれ、子どもを通してふたりはつながります。子どもたちが会話の中心になります。葛藤はあっても、子どものために夫婦を続けます。「子どもがいなかったら、どうやって暮らしていけるだろう？」

母子が家庭におり、夫は仕事に出かけて経済的に支えます。妻が家庭を運営します。

子どものために夫婦を続けますが、40代、50代になると、問題は深刻化します。

ホルモンも変化します。男性は、男性ホルモンが少なくなり、だんだん女性化されます。女性は男性化されます。男性は、職場でもだんだん後退します。友だちも仲間もなくなります。職場の人は、仲間というよりもライバルです。寂しさを感じて家庭に戻ります。

その時、夫人たちは外に向かいます。女性は友だちが沢山できます。ドアを開ければ友だちがいます。夫は行く場所がない。女性たちには自己実現の欲求が出てきます。

「子育ては、もうコリゴリ。これからは私の人生よ」

昔は、妻はおとなしく家にいました。しかし50代になった女性は男性化され、外に出かけます。

「そんなにどこに行くの？ 出かけるなら、何時に帰るか言わないと」

「そう言うあんたは、言ったことある？」

男性は、経験がないほどの戸惑いを覚えます。

ある日、夫が退職します。その時、妻は離婚しようとしています。韓国では、これを「たそがれ離婚」と言います。その頃、子どもたちが家から離れ、夫婦の親密感の糸が切れます。今までは子どもたちが役割を果たしてくれましたが、今は空の巣になりました。

葛藤が生じて、一ヶ月も二ヶ月もしゃべりません。妻は、我慢ができません。日本にもけっこうあるでしょう。

聖書では、「人とその妻は、ふたりとも裸であったが、互いに恥ずかしいと思わなかった」（創世記2章25節）とあります。親密感の極みです。裸でも、互いに恥ずかしがらない親密感。

ふたりに親密感があると、どんな危機があっても克服することができます。経済的な危機、病い、社会的な危機が来ても、親密感があれば乗り越えていけます。

(以下略)